

日本国内の病院にて炎症性腸疾患の通院治療や入院治療を
受けられた方の中で

コビッド
「COVID-19流行により生じた、本邦の炎症性腸疾患患者
が感じた不安や行動変容に関するアンケート調査

の多施設共同前向き観察研究」

ジャパン コビッド-19 サーベイ アンド クエスチョネア
～Japan COVID-19 Survey and Questionnaire
イン インフラメトリー ボール ディジーズ ジェイ-ディザイア
in inflammatory bowel disease (J -DESIRE)～

に同意された方へ

コビッド-
—「COVID-19流行により生じた、本邦の炎症性腸疾患患者が感じた不安や行動
変容に関するアンケート調査の多施設共同前向き観察研究」へご協力をお願い—

研究機関名 札幌医科大学附属病院

研究機関長 土橋 和文

研究責任者 札幌医科大学附属病院 消化器内科 教授 仲瀬 裕志

研究分担者 札幌医科大学附属病院 消化器内科 助教 我妻 康平

札幌医科大学附属病院 南檜山地域医療教育学講座 特任助教 平山 大輔

札幌医科大学附属病院 総合診療科 病院助教 風間 友江

札幌医科大学附属病院 消化器内科 診療医 山川 司

札幌医科大学附属病院 消化器内科 診療医 横山 佳浩

札幌医科大学附属病院 消化器内科 助教 林 優希

札幌医科大学附属病院 消化器内科 診療医 平野 雄大

札幌医科大学附属病院

2020年6月9日 第1.0版作成

2020年7月27日 第1.1版作成

2020年9月18日 第1.2版作成

2021年1月22日 第1.3版作成

2021年2月12日 第1.4版作成

2021年12月15日 第1.5版作成

2022年5月17日 第1.6版作成

1. 研究の概要

1) 研究の目的

日本国内および世界中でCOVID-19（以下新型コロナウイルスとする）が流行し、不要不急の外出自粛が必要となりました。また、炎症性腸疾患患者さんの治療には過剰な免疫力を抑える治療が必要となることが少なくありません。患者さんは感染のリスクを抱えながら通院や日常生活において、不安な日々を過ごしているのではないかと考えられます。今後新型コロナウイルスが完全に終息するまでには時間を要すると考えられます。そこで今回、日本に在住の炎症性腸疾患の患者さんの新型コロナウイルスに関する不安な気持ちや受診状況の変化などを把握するためにアンケート調査を実施することとしました。

2) 研究の意義・医学上の貢献

日本国内に在住の炎症性腸疾患の患者さんの新型コロナウイルスとするに関する不安な気持ちや受診状況の変化などを把握することにより、日本の炎症性腸疾患の患者さんが新型コロナウイルスの流行している中でも、安心して治療を受けられるための取り組みに活用していくことができると考えられます。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

病院長承認日～2021年6月30日の間に札幌医科大学附属病院 消化器内科、およびに研究に協力している医療機関に通院中もしくは入院中の16歳以上の炎症性腸疾患患者の方が研究対象者です。

2) 研究期間

病院長承認日～2023年6月30日

3) 予定症例数

2021年3月31日時点で、

札幌医科大学附属病院 消化器内科の予定症例数 150例

研究全体：参加施設 34施設 予定症例数 4000例

を予定しています。

4) 研究方法

病院長承認日～2021年6月30日の間に札幌医科大学附属病院 消化器内科、およびに研究に協力している医療機関に通院中もしくは入院中の炎症性腸疾患患者さんを対象とします。新型コロナウイルス流行による不安や行動の変化などに関する内容のアンケートにお

答えいただくものです。研究主旨を書面と口頭で説明いたしますので、研究に同意される方は同意書にご署名をお願いいたします。回答に要する時間は約15分です。郵送の方法で回収いたします。なお、アンケート用紙は、受け取られてから2週間以内に、返信用封筒に入れて投函いただきますようお願いいたします。アンケートの郵送先は札幌医科大学附属病院消化器内科となっています。送っていただいたアンケートはパソコンでデータ入力をし、その後データを東京大学 医科学研究所 先端医療開発推進分野/TR・治験センターに送って統計解析を行います。アンケートには個人を特定できる情報は記載しません。後に同意の撤回を希望された場合にどのアンケートか分かるように、同意書とアンケートに同じ番号を付けて管理しますが、個人情報の漏洩を防ぐため同意書とアンケートは別に管理します。

5) 使用する情報

アンケートの内容に関しては、「16)アンケート内容」をご参照ください。アンケート以外の情報は使用しません。あなたの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

6) 情報の保存、二次利用

6-1 情報の匿名化と管理方法

調査により得られた情報を取扱う際は、対象患者さんの個人情報保護に十分配慮します。特定の個人を識別することができないよう、対象患者さんに研究用の符号もしくは番号を付与し対応表を作成します。対応表はアクセス制限のあるパソコン（又は紙媒体等は鍵のかかるキャビネット）で厳重に管理します。

6-2 参加中止患者さんの情報の取り扱いについて

参加中止患者さんの情報については、中止の要望を受けた時点で解析から除いて対応します。

6-3 情報の二次利用について

本研究で得られた情報を、新たな研究目的で二次利用する可能性があります。本研究で得られた情報を用いる場合は、札幌医科大学附属病院の臨床研究審査委員会（倫理委員会）の承認を必要とします。

6-4 情報の保管および廃棄の方法

本研究で得られた情報は、施錠が可能な札幌医科大学 医学部 消化器内科学講座の医局の施錠される棚で厳重に管理されます。保管場所のセキュリティは施設の入り口および研究室の入り口のロックにより保たれます。電子データについては外部から切り離された

コンピューターのハードディスク内に保存し、コンピューターはパスワード管理を行い、情報の紛失・漏えい等に十分配慮した取扱いの上で保管します。研究対象者の氏名および同意説明書の記録については、アンケートをお渡しした病院で保管をします。なお、保管期間は本研究の終了日より5年を経過した日までとします。電子データは個人情報に十分注意しコンピューターから削除します。その他の紙媒体で保管した情報はシュレッダーで裁断し廃棄します。

7) 外部への情報の提供

本研究では、通院をしている病院でアンケートを受け取ります。アンケートの郵送先は札幌医科大学附属病院消化器内科となります。送っていただいたアンケートはパソコンでデータ入力をし、その後データを東京大学 医科学研究所 先端医療開発推進分野/TR・治験センターに送って統計解析を行います。各アンケートに個人情報を記載する欄はありませんが、後に同意取得の確認ができるように、また同意撤回の申し出があった場合に結果から除外できるように、アンケートには同意書と連結できる番号が記載されます。

8) 情報の管理責任者

この研究で使用する情報は、以下の責任者が管理します。

札幌医科大学附属病院 消化器内科学講座 講師 阿久津 典之

9) 研究結果の公表

この研究は氏名、生年月日などのあなたを特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。研究代表者、研究分担医師は、本臨床研究で得られた情報を専門の学会・専門誌等外部に公表する場合には、共同研究者の承認を得た後、共同研究である旨を明示した上で報告します。また、研究結果が初期の予想のものでない場合でも投稿等でデータを公表します。

10) 費用負担及び謝礼について

本研究はアンケート調査による研究です。アンケートの郵送にかかる費用は本講座の研究費にて負担させていただきます。そのほかの費用負担は生じません。

謝礼や交通費の支給はありません。

11) 健康被害の補償および保険への加入

本研究はアンケート調査による研究のため健康被害は生じません。そのため補償や保険への加入はありません。

12) 知的財産権について

本研究の結果が特許権等の知的財産を生み出す可能性があります、その場合の知的財産権は研究者もしくは所属する研究機関に帰属します。

13) 研究の資金源及び利益相反について

本研究は、札幌医科大学消化器内科学講座の研究費用や、厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸疾患障害に関する調査研究」班の研究費用を使用します。本研究の計画・実施・報告において、研究の結果および結果の解釈に影響を及ぼすような「起こりえる利益相反」は存在せず、研究の実施が被験者の権利・利益を損ねることはありません。

14) 共同研究施設、施設研究責任者について

この研究に協力している医療機関および責任者は以下のとおりです。

| | | |
|----------------------------------|--------------|--------|
| 東京大学 医科学研究所 先端医療開発推進分野/TR・治験センター | 准教授 | 野島 正寛 |
| 杏林大学医学部附属病院 消化器内科 | 教授 | 久松 理一 |
| 旭川医科大学病院 第三内科（消化器内科） | 准教授 | 藤谷 幹浩 |
| 医療法人潤愛会 鮫島病院 | 内科部長 | 西俣 伸亮 |
| 岩手医科大学附属病院 消化管内科 | 教授 | 松本 主之 |
| 浦添総合病院 消化器病センター | 顧問 | 金城 福則 |
| 大阪大学医学部附属病院 消化器内科 | 准教授 | 飯島 英樹 |
| 岡山大学病院 炎症性腸疾患センター | センター長、准教授 | 平岡 佐規子 |
| 香川県立中央病院 消化器内科 | 部長 | 高橋 索真 |
| 関西医科大学附属病院 消化器肝臓内科 | 教授 | 長沼 誠 |
| 佐賀大学附属病院 光学医療診療部 | 診療教授 | 江崎 幹宏 |
| 札幌IBDクリニック | 院長 | 田中 浩紀 |
| 札幌厚生病院 消化器内科IBDセンター | 副院長兼IBDセンター長 | 本谷 聡 |
| 札幌東徳洲会病院 IBDセンター | 副院長・IBDセンター長 | 前本 篤男 |
| 島根大学医学部内科学講座 | 教授 | 石原 俊治 |
| 獨協医科大学病院 消化器内科 | 准教授 | 富永 圭一 |
| 辻仲病院柏の葉 消化器内科・IBDセンター | 部長・センター長 | 竹内 健 |
| 東京慈恵会医科大学附属病院 消化器・肝臓内科 | 教授 | 猿田 雅之 |
| 東邦大学医療センター佐倉病院 消化器内科学 | 教授 | 松岡 克善 |
| 東北大学 消化器内科 | 助教 | 角田 洋一 |
| 東北医科薬科大学 医学部 内科学第二（消化器内科） | 講師 | 遠藤 克哉 |
| 富山県立中央病院 消化器内科 | 部長 | 松田 耕一郎 |
| 名古屋大学医学部附属病院 消化器内科 | 教授 | 藤城 光弘 |
| 新潟大学医歯学総合病院 消化器内科学分野 | 教授 | 寺井 崇二 |

| | | |
|-------------------------------|-------|-------|
| 浜松医科大学医学部附属病院 消化器内科 | 准教授 | 杉本 健 |
| 兵庫医科大学病院 炎症性腸疾患内科 | 特任准教授 | 渡辺 憲治 |
| 弘前大学大学院医学研究科 消化器血液内科学講座 | 准教授 | 櫻庭 裕丈 |
| 福岡大学医学部 消化器内科 | 教授 | 平井 郁仁 |
| 福岡大学筑紫病院 消化器内科 | 助手 | 武田 輝之 |
| 藤田保健衛生大学病院 消化管内科 | 教授 | 大宮 直木 |
| 防衛医科大学校病院 消化器内科 | 教授 | 穂刈 量太 |
| 松山赤十字病院 胃腸センター | 医師 | 清森 亮祐 |
| 横浜市立大学附属市民総合医療センター 炎症性腸疾患センター | 准教授 | 国崎 玲子 |

15) 研究に関する問い合わせ等

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。アンケート用紙を受け取られたあとでも、アンケートを返信しないことで、協力をとりやめることができます。また、アンケートを返信された後でも、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究に使用しませんので、2021年7月31日までの間に下記の連絡先までお申し出ください。お申し出をいただいた時点で、研究に用いないように手続をして、研究に用いられることはありません。この場合も、その後の診療など病院サービスにおいて患者の皆様に不利益が生じることはありません。

ご連絡頂いた時点が上記お問い合わせ期間を過ぎていて、あなたを特定できる情報がすでに削除されて研究が実施されている場合や、個人が特定できない形ですでに研究結果が学術論文などに公表されている場合は、解析結果からあなたに関する情報を取り除くことができないので、その点はご了承下さい。

<問い合わせ・連絡先>

札幌医科大学 医学部 消化器内科学講座

氏名：

札幌医科大学附属病院

| | | | | |
|------|--------------|------|-------|---------|
| 担当医師 | 消化器内科 | 教授 | 仲瀬 裕志 | (研究責任者) |
| | 消化器内科 | 助教 | 我妻 康平 | (研究分担者) |
| | 総合診療科 | 病院助教 | 風間 友江 | (研究分担者) |
| | 南檜山地域医療教育学講座 | 特任助教 | 平山 大輔 | (研究分担者) |
| | 消化器内科 | 診療医 | 山川 司 | (研究分担者) |
| | 消化器内科 | 診療医 | 横山 佳浩 | (研究分担者) |
| | 消化器内科 | 助教 | 林 優希 | (研究分担者) |
| | 消化器内科 | 診療医 | 平野 雄大 | (研究分担者) |

| | | | | |
|-------|-------|-----|--------|---------|
| 担当看護師 | 9階西病棟 | 師長 | 野口 直美 | (研究協力者) |
| | 9階西病棟 | 副師長 | 羽澄 あゆこ | (研究協力者) |
| | 9階西病棟 | 看護師 | 蛭澤 直美 | (研究協力者) |
| | 9階西病棟 | 看護師 | 門屋 歩 | (研究協力者) |
| 担当薬剤師 | 薬剤部 | 薬剤師 | 中野 敬太 | (研究協力者) |

電話：011-611-2111 内線 39390 (平日：8時45分～17時30分) 9階西病棟

011-611-2111 内線 39390 (夜間：17時30分～8時45分、休日) 9階西病棟

ファックス：011-611-2282 (平日：8時45分～17時30分)

16) アンケート内容

No. _____ (病院側で記載をします) 1/8 ページ

コピッドー
COVID-19 流行により生じた、本邦の炎症性腸疾患患者が感じた不安や行動変容に関するアンケート調査

以下の質問にお答えください。

年 齢 () 歳

性 別 (男 ・ 女)

居住地 (都道府県:) (市区町村:)

婚姻状況 (未婚 ・ 既婚)

同居者 (有 ・ 無)

職 業 (会社員 ・ 公務員 ・ 自営業 ・ パート/アルバイト ・ 専業主婦(夫) ・ 学生 ・
・ 無職)

疾患名 (潰瘍性大腸炎 ・ クロウン病)

病 歴 () 年 (診断されてから何年経過したかご記載ください)

手術歴 () 回

ストマ(人工肛門) (有 ・ 無)

潰瘍性大腸炎やクロウン病の治療で、アンケートをもらった病院以外に、自宅近くの病院にも通院していますか？

(はい・いいえ)

普段の受診間隔 (約1か月以内 ・ 約2~3か月 ・ 約4か月以上)

普段の自宅~病院までの所要時間 (約30分以内 ・ 約1~2時間 ・ 約3時間以上)

普段の通院手段 (徒歩や自転車 ・ 車 ・ バス ・ 電車 ・ その他)

新型コロナウイルスが流行し、通院手段を変更しましたか？ (はい ・ いいえ)

通院手段を変更した場合、現在の通院手段 (徒歩や自転車 ・ 車 ・ バス ・ 電車 ・ その他)

No. (病院側で記載をします)

2/8 ページ

あなたの病気（潰瘍性大腸炎またはクローン病）の現在の治療状況
(過去に行った治療でも、現在は行っていない治療は除いてください。)

あてはまるもの全てに○をつけてください。

【内服薬】

- () 5アミノサリチル酸製剤（ペンタサ錠・顆粒、アサコール、リアルダ錠、メサラジン、サラゾピリン）
- () 副腎皮質ステロイド（プレドニン錠）
- () 副腎皮質ステロイド（ゼンタコート）
- () チオプリン製剤（イムラン、アザニン、ロイケリン散）
- () 経口タクロリムス（経口プログラフ）
- () ゼルヤンツ錠

【坐剤】

- () ペンタサ坐剤
- () リンデロン坐剤
- () サラゾピリン坐剤

【注腸・フォーム剤】

- () ペンタサ注腸
- () プレドネマ注腸
- () ステロネマ注腸
- () レクタブル注腸フォーム

【注射】

- () 副腎皮質ステロイド（プレドニン）
- () レミケード点滴
- () ヒュミラ皮下注
- () シンポニー皮下注
- () ステララ点滴または皮下注
- () エンタイビオ点滴

【血球成分除去療法】

- () 顆粒球吸着療法

【栄養療法】

- () 有

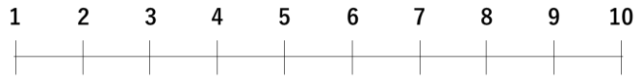
【上記以外のその他の治療（以下に記載ください）】

()

以下の質問において、当てはまるところに○をつけてください。

1. 新型コロナウイルスに関する不安について

(1) 新型コロナウイルスの流行により、あなたの病気（潰瘍性大腸炎またはクローン病）に関連してどのぐらい不安を感じましたか？



不安は全くない

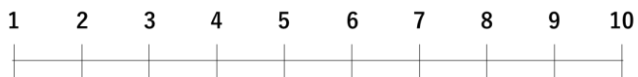
不安が非常に強い

(2) 質問(1)で多少なりとも不安を感じている方に伺います。不安の内容はどのようなものがありますか。

現在もしくは過去に感じた不安として、あてはまるもの全てに○をつけ、他にもあれば自由記載欄にご記載ください。

- () 病院で新型コロナウイルスに感染する可能性があるので、受診するのが不安である。
 - () 内服薬は余りがあったり電話処方でも対応してもらえるが、点滴や注射で受診をしなければならず不安である。
 - () 受診には公共の交通機関を利用する必要があるため、受診するのが不安である。
 - () 病院が遠方にあり、病院のある新型コロナウイルスが流行している都市に移動するのが不安である。
 - () マスクなどの感染予防グッズがないため、受診するのが不安である。
 - () 病気があること自体で新型コロナウイルスに感染する可能性が高くなりそうで不安である。
 - () 治療の薬により新型コロナウイルスに感染する可能性が高くなりそうで不安である。
 - () 病院側から受診や検査を延期するように言われて不安である。
 - () 病院閉鎖などにより、今後病院を受診できなくなるのではないかと不安である。
 - () 収入が減って治療費の支払いに不安を感じるようになった。
 - () 受診をしたいが、周りの目が心配で受診がしにくい。
 - () 休校/休園で子どもが家にいるようになり、もしくは感染が心配で子どもをあずけにくく、受診がしにくい。
 - () 自分が他者に、新型コロナウイルスを移してしまうかもしれないという不安がある。
- (その他: _____)

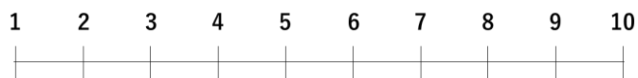
(3) 新型コロナウイルスが流行するまでのあなたの病気（潰瘍性大腸炎またはクローン病）の症状はどうでしたか。



安定

不安定

(4) 新型コロナウイルス流行後のあなたの病気（潰瘍性大腸炎またはクローン病）症状はどうですか。

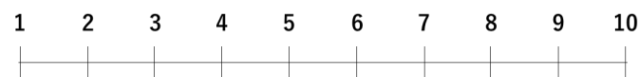


良くなった

変わらない

悪くなった

(5) 新型コロナウイルスの流行が、病気を抱えている自身の生活に影響を及ぼしていると感じますか。



全く感じない

強く感じる

2. 受診について

- (1) 予定通り受診ができていますか。 あてはまるもの全てに○をつけてください。
- (a) 予定通り病院を受診して診察を受けている
 - (b) 受診を延期した、もしくは通常よりも受診間隔を伸ばした
 - (c) 病院には行ったが、通常のような診察はせず、薬の処方や点滴・注射のみしてもらった
 - (d) 病院には行かずに電話で処方してもらった
 - (e) 自宅近くの他の病院で処方や点滴・注射をしてもらえるように変更してもらった。
 - (f) 受診できていない
- (2) 質問(1)で予定通り受診をできなかった方 (b,c,d,e,f と答えた方) に伺います。受診をできなかった、延期した理由はどちらですか。
- (a) 自分の判断
 - (b) 病院側から受診を控えるように言われた
- (3) 予定通り内視鏡などの検査を行えていますか。
- (a) 予定通り検査を行えている
 - (b) 検査を延期した
 - (c) 検査を中止した
 - (d) 検査の予定はなかった
- (4) 質問(3)で予定通り検査をしなかった方に伺います。検査をしなかった、延期した理由はどちらですか。
- (a) 自分の判断
 - (b) 病院側から検査を控えるように言われた
- (5) 新型コロナウイルスのような感染症が流行した場合、IBD 専門のかかりつけ医の必要性について、どう思いますか。

※かかりつけ医：ご自宅近くで病気のことなどをいつでも気軽に相談したり診察してもらえる身近なお医者さん

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|

必要性を
全く感じない

必要性を
強く感じる

3. 内服・注射について

(1) 新型コロナウイルス流行してから内服・注射は継続していますか。

- (a) 指示通り内服・注射を続けている
- (b) 内服や注射薬の量や回数を減らしたことがある
- (c) 内服や注射を中止したことがある

(2) 質問(1)で(b)(c)と回答した方に伺います。理由としてあてはまるもの全てに○をつけ、他にもあれば自由記載欄にご記載ください。

- (a) 主治医の指示
- (b) 病院側の都合で受診ができず、内服薬が足りなくなった/注射ができなかった。
- (c) 感染するのが心配でご自身の判断で受診しなかったため、内服薬が足りなくなった/注射ができなかった。
- (d) 感染するのが心配で内服薬は電話処方してもらったが、病院を受診しなかったため注射はできなかった。
- (e) 薬により感染のリスクが高くなると自分で判断して、自分で減らした/中止した。
- (f) 症状が安定していた
- (その他: _____)

(3) 質問(1)で(b)(c)と回答した方に伺います。主治医の先生にはそのことを伝えてありますか？

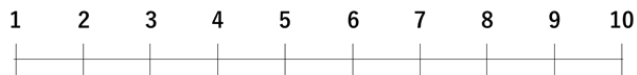
- (a) はい (b) いいえ

(4) ステロイド(プレドニゾロン、プレドニン、ゼンタコートなど)に関して

(4-1) あなたの病気(潰瘍性大腸炎またはクローン病)に対して使用したことはありますか？

- (a) 現在使用している (b) 過去に使用したことがある (c) 使用したことはない (d) 分からない

(4-2) これらの薬剤の使用は新型コロナウイルスの感染のリスクを上げると思いますか？



全く思わない

非常にそう思う

0: 分からない

(4-3) (4-2)で1~10と回答した方に伺います。そのように考えた情報源は何ですか？

あてはまるもの全てに○をつけてください。

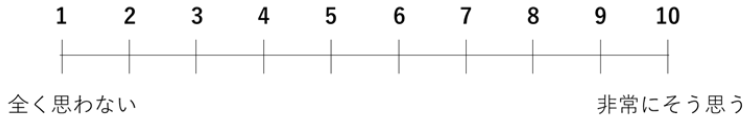
- (a) 自分の考えのみ (b) 家族や知人(医療関係者) (c) 家族や知人(医療関係者以外) (d) 主治医
- (e) 患者会 (f) 雑誌 (g) 新聞 (h) インターネット (i) テレビ

(5) 免疫調節薬(アザニン、イムラン、ロイケリンなど)、経口プロゲラフに関して

(5-1) あなたの病気(潰瘍性大腸炎またはクローン病)に対して使用したことはありますか？

- (a) 現在使用している (b) 過去に使用したことがある (c) 使用したことはない (d) 分からない

(5-2) これらの薬剤の使用は新型コロナウイルスの感染のリスクを上げると思いますか？



0：分からない

(5-3) (5-2) で1~10 と回答した方に伺います。そのように考えた情報源は何ですか？

あてはまるもの全てに○をつけてください。

- (a) 自分の考えのみ (b) 家族や知人 (医療関係者) (c) 家族や知人 (医療関係者以外) (d) 主治医
 (e) 患者会 (f) 雑誌 (g) 新聞 (h) インターネット (i) テレビ

(6) ゼルヤンツ錠、生物学的製剤 (レミケード、ヒュミラ、シンボニー、エンタイビオ、ステラールなど) に関して

(6-1) あなたの病気 (潰瘍性大腸炎またはクローン病) に対して使用したことはありますか？

- (a) 現在使用している (b) 過去に使用したことがある (c) 使用したことはない (d) 分からない

(6-2) これらの薬剤の使用は新型コロナウイルスの感染のリスクを上げると思いますか？



0：分からない

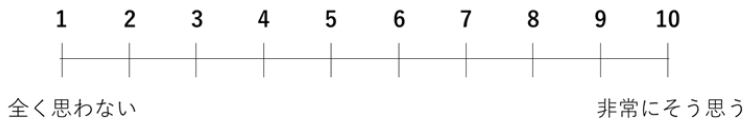
(6-3) (6-2) で1~10 と回答した方に伺います。そのように考えた情報源は何ですか？

あてはまるもの全てに○をつけてください。

- (a) 自分の考えのみ (b) 主治医 (c) 家族や知人 (医療関係者) (d) 家族や知人 (医療関係者以外)
 (e) 患者会 (f) 雑誌 (g) 新聞 (h) インターネット (i) テレビ

4. あなたの病気 (潰瘍性大腸炎またはクローン病) に関して

(1) 潰瘍性大腸炎やクローン病であること自体は、新型コロナウイルスの感染のリスクを上げると思いますか？



(2) (1) のように考えた情報源は何ですか？ あてはまるもの全てに○をつけてください。

- (a) 自分の考えのみ (b) 主治医 (c) 家族や知人 (医療関係者) (d) 家族や知人 (医療関係者以外)
 (e) 患者会 (f) 雑誌 (g) 新聞 (h) インターネット (i) テレビ

5. 新型コロナウイルス感染予防の説明に関して

(1) 新型コロナウイルス感染を予防するための情報を主治医より教えてもらいましたか？

- (a) はい (b) いいえ

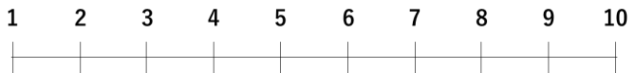
(2) (1) で(a)と回答した方に伺います。説明には満足しましたか？



満足しなかった

満足した

(3) (1) で(a)と回答した方に伺います。説明を聞いた後に不安はどのように変化しましたか？



減った

変わらない

増えた

(4) (1) で(b)と回答した方に伺います。

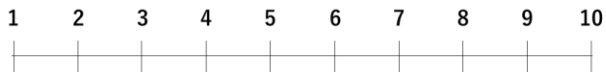
- (a) 聞いたが教えてもらえなかった
(b) 聞きたかったが聞けなかった
(c) 主治医に聞くつもりはなく聞けなかった

6. 新型コロナウイルスと薬剤の関係の説明に関して

(1) 新型コロナウイルスの流行している状況で、現在の薬剤を継続して良いか主治医より教えてもらいましたか？

- (a) はい (b) いいえ

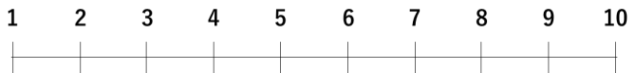
(2) (1) で(a)と回答した方に伺います。説明には満足しましたか？



満足しなかった

満足した

(3) (1) で(a)と回答した方に伺います。説明を聞いた後に不安はどのように変化しましたか？



減った

変わらない

増えた

(4) (1) で(b)と回答した方に伺います。

- (a) 聞いたが教えてもらえなかった
(b) 聞きたかったが聞けなかった
(c) 主治医に聞くつもりはなく聞けなかった

7. 現在内服している薬剤や行っている治療に関して、新型コロナウイルスが流行したことで不安に感じていることがあれば
ご記載ください。

[]

8. その他、新型コロナウイルスが流行したことでの病院の対応等でご意見があれば、ご記載ください

[]

ご協力ありがとうございました。